

会議名	令和6年度 第3回 稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会
開催日時	令和7年2月14日（金） 午後1時30分～3時10分
開催場所	稲沢市勤労福祉会館 3階 第4会議室
主催	生涯学習課
議題	<p>◎あいさつ</p> <p>協議事項</p> <p>1 令和7年度主要事業に係る取り組みについて</p> <p>（1）令和7年度社会教育目標（案）について</p> <p>（2）令和7年度主要事業取組シートについて</p> <p>（3）部活動地域移行検討委員会について</p> <p>2 その他</p>
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <p>山内晴雄、吉川光彦、大野芳樹、定行加保里、大室有美、服部みどり、栗林芳彦、渡辺香織、牧修、藤田美知子、牛嶋みゆき、松原正明、木村甲志朗</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>教育長、教育部長、生涯学習課長、スポーツ課長、図書館長、美術館長、各課グループリーダー、生涯学習課主任 計13名</p>
備考	傍聴者なし

**【会議概要】**

◎あいさつ

（教育長）

- ・御多用のところお集まりいただいたことへのお礼。
- ・AI、人工知能に代表されるように昨今の科学技術の発展は目を見張るものがある。私たちは1年前のことも陳腐化するような日進月歩の社会を生活している。一方で、少子高齢化や人口減少といったいまだかつてない現実が社会の激しい変化の一因となっており、私たちの生活スタイルや価値観の変更を余儀なくさせる状況になりつつある。そのような社会の変化の中で、社会教育行政においてもどこに不易の部分としての軸足を置くのか、加速度的に変化していく社会に対応する流行の部分をどのように捉えるのか、そうした観点から今後は今までと違うアプローチが求められると考えている。
- ・本日は、委員の皆様から様々な観点から御意見をお伺いし、今後の取り組みに活かしていきたいと考えている。

（委員長）

- ・第3回目の社会教育委員会となる。第3回目の主なところは、来年度の社会教育目標

と取組シートになる。社会教育目標は、教育委員会にも出され、来年度の第1回にも確認があるだろうと思う。

・新しいことは、部活動の地域移行の問題となる。社会教育から考えると大きな問題だと思う。課題についてできるだけ時間を取りたいと思う。

・本日は社会教育委員会後に市長との懇談会がある。その前に社会教育の今後のあり方についてやっておきたいことがある。先ほど教育長の話にもあったように世の中が進歩し、変わってきてしまっている。その中で、それに振り回されている部分が多い。不登校の問題でも教育委員会での議題になっていたりと、総合教育会議の中でも話題になったりしているが、社会教育委員の目から見たときに引っかかる部分もある。社会教育のあり方について時間を取らせていただきたいと思う。

・市長との懇談については正式な会議ではなくて、会議録もなしで、自由に意見を言う場としたい。

※教育長は他の会議のため一時退席

#### ◎議題

##### 1 令和7年度主要事業に係る取り組みについて

(1) 令和7年度社会教育目標(案)について

(2) 令和7年度主要事業取組シートについて

社会教育目標については、3月21日の定例教にて議案提出し、承認を得る。

資料1「令和7年度 社会教育目標(案)」、資料2「令和7年度主要事業取組シート」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

#### (生涯学習課)

・社会教育目標についてはDXについてわかりやすくした方がよいという御意見をいただきDXの説明を追加した。

・主要事業に係る取組シートの地域学校協働活動推進事業については、謝礼の増額を予算要求したが、財政事由により、増額はかなわず、今年度と同額となっている。

・令和6年度の実施内容として、1月31日に推進員等交流会を実施し、事例発表・情報交換を行い、推進員22名、教職員24名、その他5名の参加があった。

#### (スポーツ課)

・社会教育目標は前回から変更なし。

・主要事業に係る取組シートのトップアスリートとの交流事業について、ウルフドッグス名古屋の選手・コーチによる小学生対象のバレーボール教室は、令和5年度から継続して実施している。

- ・令和8年度に豊田合成記念体育館 ENTRIO でアジア競技大会ハンドボール男子の競技が開催されることになっている。機運醸成を図るため、令和7年度新たに豊田合成ブルーファルコン名古屋の選手・コーチによる小学生対象のハンドボール体験教室を開催する。
- ・令和6年度の実施内容について、部活動巡回指導で、バレーボールは大里東中、千代田中、平和中で実施。ハンドボールについては、稲沢西中、治郎丸中合同で豊田合成ブルーファルコン名古屋の練習拠点である豊田合成健康管理センターで実施した。
- ・第20回アジア競技大会については、令和6年度の実施内容で、大きな国際大会を開催するにあたり、ボランティアの協力なくては大会運営が困難であるため、1月18日(土)に勤労福祉会館で、ボランティア募集の説明会を実施した。大会組織委員会ではボランティアの募集を行っており、募集期間を当初1月末までとしていたが、進学や就職が確定した方にも参加機会を提供してほしいという声や目標数に届いていない状況も踏まえ、4月末まで募集期間が延長されている。
- ・委員の皆様でもって御興味のある方、また、お知り合いの方などにお声掛けいただきボランティアの募集にご協力いただければと思う。
- ・聖火リレーについては、ENTRIO 会場を中心にルートの候補を検討している。

(図書館)

- ・前回から変更なし。

(美術館)

- ・令和7年度特別展について、名称が「荻須高德 リトグラフ展 ―稲沢市荻須記念美術館コレクション― (仮)」となっているが、「荻須高德 リトグラフ展 ―稲沢市荻須記念美術館コレクション―」に決定した。
- ・主要事業に係る取り組みシートの予算額について、査定後の金額に変更した。

質疑応答

(委員)

- ・トップアスリートとの交流事業について、前回から減額になっている理由をおしえてほしい。

(スポーツ課)

- ・予算査定において令和6年度の決算ベースで計上するように要求されたため、減額となった。

(委員)

- ・内容的には変更ないのか。

(スポーツ課)

- ・小学生対象のバレーボール教室について、ウルフドッグス名古屋の選手・コーチの方をお願いして教室を開催していただいた。これにかかった費用についてももう少し安く実施できるということになったので、事業の内容はそのままで経費が削減できた。

(委員) 子ども読書活動の推進について、第4次稲沢市子ども読書活動推進計画に基づき、具体的な取り組みの実施を行うとともに、計画の進行管理を行う。とあるが、予算が0になっていることについて説明してほしい。

(図書館)

・令和6年度の予算額については計画策定に伴う印刷製本費であり、令和7年度については、進行管理とありますが市役所の各課に対して調査をするものとなるため、予算がかかるものではない。

(委員)

・ハンドボールの体験教室はどこでやるのか。

(スポーツ課)

・尾西信金いなざわアリーナ（総合体育館）で夏休みに実施する予定。

(委員)

・毎回同じような資料ばかりでてくる。今年度はこれをやるとか、これに力を入れたいとか、新しい事業これやるとかをぜひ聞かせてください。

(委員)

・社会教育目標があって事業がある。目標が財政に予算要求する上での一つの材料になる。何の事業をやろうとしたけど、予算が通らなかったとか具体的に今後お話をしているだけのようなシステムに社会教育委員会になってほしい。意見を言っても何にもならないということになると寂しい。

・令和7年度の稲沢市の教育がまた配布されることになると思う。これは保護者と誰に公開されるか。

(教育部長)

・保護者と学校に配布されることになる。

(委員)

・それで終わってしまう。なぜもっと情報を提供しないのかということを感じる。情報提供できる仕組みを作らないと宝の持ち腐れになる。自己満足で終わってしまうと思う。HPに載っているが、載っていることがわからない。皆さんに理解してもらうためにどうするかということ工夫していただけるといい。

### (3) 部活動地域移行検討委員会について

生涯学習課から部活動地域移行検討委員会での現状について説明

(生涯学習課)

・令和8年2学期からは、(A)種目と活動場所を選択し、部活動指導員による指導を受ける。(B)地域にあるスポーツ・文化団体に所属し、活動するという2パターンを選択していただくことになる。将来的には、(B)を目指すのが、まずは(A)の部活動指導員による指導を受ける活動を目指すという方向性となっている。

・学校教育課からは種目別の想定部員数、活動種目別の拠点校の提案がありました。ただし、今後の部員数、部活動指導員の充足状況により変更することがあること、部活動指導員を増員するように予算要求しており、さらなる増員のために募集をかけているとの報告があった。また、スポーツ課では、スポーツ団体に対して中学生の参加を受け入れが可能なか調査している。

・令和7年度の取り組みとして、令和7年9月には部活動指導員を中心とした拠点校での活動の実証事業を行う予定をしている。こちらについては、指導員の確保がすでに完了しており、実証してみてどのような点で困ることがあるか洗い出すことになるかと聞いている。

(委員)

・市民の皆さんにとって非常に関心のあることだと思う。この話は、教員の働き方改革だとか現在の世の中の働き方改革だとかの流れから世の中が動いているが、その中の一つなのではないか。目の前にある問題をどう解決するかハウツーになってしまっていないかと思う。

・中学校の部活動の目的は何だったかという話で、目標といえば大会の優勝するとかになるかもしれない。目的はというと教育の一環になる。部活動で優勝するのが一番大事なこととして捉えられると専門のコーチを雇わないといけないとか、あの先生は素人のくせに顧問をしているとかいう意見が出てくる。そういった意見が出てくるのは仕方のないことだとしても、本来の中学校の部活動の目的というのを忘れてはいけない。

質疑応答

(委員)

・アンケートの結果の保護者からの意見で、けがをした場合の責任の所在がどこにあるのか心配というものがある。保険についてはどのようになるのか。

(教育部長)

・しばらくは部活動指導員が指導するので、部活動の延長ということで学校の保険が使える。また、完全に部活動が地域のスポーツ・文化芸術団体に移行してしまうと新たな保険に加入する必要が出てくる。

(委員)

・保護者のアンケート結果で保護者負担について月1,000～3,000円程度の金銭的負担は許容できるという意見が多くなっているとあるが、物価高もあり金銭的負担が難しい家庭もあるかと思う。その場合はどうするか。

(教育部長)

・まだそこまでの議論はできていないが、就学援助の中で部活動の費用を一部支援することになるかと思う。ただ全員に援助ということにはならない。

・ほかにも、拠点校という形で行うため、通常の部活動とは別の形で捉えている。そのため、部活動で使っている道具をそのまま使わせてもいいのかという話がある。そこで

使う道具は、新たに購入する必要がでてくるのかと思う。今のところは、お金を徴収するところがないので、しばらくは市の方で負担するのかどうかを考えていく必要がある。

(委員)

・部活動地域移行という話がすごく表に出てきている。部活動というものがこのまま行くと、例えば野球なら野球、テニスならテニス、ハンドボールならハンドボールの専門のチームを作っていこうということになっていってしまわないか。

・地域学校協働活動とも関わりがある。今まである組織を上手に使って、地域づくりをしよう、地域みんなで子どもたちを育てようということになる。地域とつながりをもう一度見直そうといったのが地域学校協働活動。

・地域移行について、どうしてこんなことやるのかということの説明されるときに、稲沢市の地域移行は、地域みんなで子どもを育てていこうというところを基盤にして、そうなったところでやるということが見えてこないから、専門的な人がやったらいいのではないかということになってしまう。

・これからやっていくときに、どういう成果ができ、どういう問題が出てきて、それにどう対処するのか。一番は子どもたちの教育だということだが、それが変わってしまう話になる気がする。どうも目の前のことのやり方ばかりに話がいつている気がする。

(委員)

・親の立場から発言させていただく。子どもがテニス部に所属していて、自主的にテニスコートを借りて練習している。アンケートを見たときに、(A)と(B)のパターンがあるが、アンケート結果とはかけ離れていると感じている。個人の意見にはなるが、子どもたちにとっては場所が欲しくて、野球もそうだが、その辺の近所の公園ではボール禁止となっている中で、近くのグラウンドを開放してもらえれば、子どもたちが自主的に練習することも、先輩後輩のなかで練習することもできる。

・保護者はある程度お金を出してもいいという声が多く、理解もしていると思うが、学校のグラウンドを開放して、専門的でなくても見守りとして、保護者が一人か数人が見守りをするということで、子どもたちの自主性に任せるということでやってもらえたら、子どもたちも喜ぶ。地域の人も専門的な知識がなくても何かあったときに対応できるという形でやっていただけたらありがたいと思う。

(委員)

・部活動の地域移行は、中学校の先生の中で、指導員になるという人はなってもいいけど、基本的には先生の仕事からは外すということだということではよいか。

(教育部長)

・地域移行は完全に民間のスポーツ・芸術文化団体に所属するということになる。令和8年度2学期からは、部活動指導員が指導するので、稲沢市は地域連携ということになる。最終的に稲沢市が目指すところは民間にということになる。ただ、新しいスポーツ団体等を設立することは難しいので、今ある団体に中学校の生徒が所属するのが一番いい方法ではないかと思っている。

・アンケートでは、子どもたちは土日の活動をセーブしたいというのが半数だが、保護者はやらせたいという考えの方が多い。子どもと保護者でも考えが少し違うところがある。その中でも、一生懸命に部活動を取り組みたいという子もいれば、楽しく活動したいという子もいる。様々な受け皿を用意するのがいいと思っている。スポーツ課で学校開放の登録団体に中学生が所属できるか、部活動の指導員をやっていただけるかなどアンケートを取っており、その結果を各中学校に説明させていただく方法を考えている。

(委員)

・努力はしないといけない。どういう手があるか、活動場所はどうするか、先生たちにどのくらい関わってもらえるかなど試行段階だと思う。ただ、目的は何かということは忘れてはいけない。地域づくりや青少年の健全育成につながることを願っている。

(委員)

・部活動指導員に対して説明が足りない。部活動指導員にどこまで責任があるのか。そこがはっきりしないと事故が起きたらどうしようとか足が止まってしまう。今までは学校なのである程度は教育委員会が責任を負ってくれるが、それが地域移行になると将来的に教育委員会が主ではなくなる。何年かかるかはわからないが、急いでやると様々なところで支障が出てくると思う。部活動指導員の声も聞いてほしい。

(委員)

- ・学校現場や指導員の意見も十分踏まえたうえで、進めていただきたい。
- ・地域に完全に移行した場合、どこのチームで試合に出るのかということもある。

## 2 その他

### (1) これからの社会教育のあり方について

#### 各委員から発言

(委員)

- ・稲沢市の生涯学習推進会議と社会の背景という資料を配布させていただいた。
- ・携帯やスマホというものが普及してきて、とてもいい面もあれば様々な問題も起きている。そうしたことを社会教育で対応していかなければいけないということを提言してきた。
- ・新型コロナ感染症の流行もあった。これにより人々の認識の変化や行動変容が生まれるから、そうしたことを考えるのが我々の仕事だと思う。
- ・世の中の流れをつかまなければいけないが、流されてはいけない。普遍的なものが世の中にはある。部活動の目的は教育だということと同じように、忘れてはいけない基本的なこともある。
- ・社会教育のあり方について委員から意見を伺いたい。

(委員)

・人間の一生の中の学びを考えると、子どものときの学びと大人になってからの学びは違う。動機も違うし、用意しなければいけないリソースが違う。

・必ず必要な学びは、社会の関わりでいうと、子どもが個人の存在であったのが、社会化されていくところの学びだと思う。そこには、子どもと親ではない大人などの異年齢かつ斜めの関係が必要だと思う。兄貴分、姉貴分、おじさん、おばさんのような存在がいるといい。稲沢市は国府宮のお祭りがずっとあって、そこで地域で出会う大人がいる。一方で、今後変わっていくことは、働き方改革もあって、今まで学校が担ってきたことが担わなくなってきた。その分をどう補填していくのかということかと感じている。今まで学校が担ってきて、ある程度うまくいっていたのだから、人が足りないなら、人を増やせば一番簡単だと思うが、国全体で違う方向に舵を切ったので、いまさらそんなことも言ってもしかたがない。ただ、子育てのことでも行政サービスをもう撤退しますでは済まないように、辞めますでは済まないことがある。それをどうやって補填していくのだろうかということがある。それが、指導員であったり、部活動の地域移行だったりするだろうと考えている。

・成人に対する学習の部分でいうと、変わらないことは、学ぶことで自己実現していくということだと思う。かつて成人教育といえば、趣味で例えば歴史を学びたい人が、講座に行って歴史を学ぶとかだった。流行の部分でいうと、世の中が大きく変わっていて、アンラーンやリスクリング、個人の趣味の問題ではなく、社会の中で生きていく大人として学び直さないといけないことが出てきて、基本的には自腹を切って勉強していて、それを行政として何か補うのか補わないのかというバランスの問題だと思う。

(委員)

・国府宮はだか祭に女性として参加したが、それまではなおい切れをもらいに行くだけだった。

・なおい笹を作るのにあっても場所を確保して、参加される家族もみんな来て、お酒とかを用意しながら、その段階からみんなでああでもないこうでもないと言いながらやる祭りになっている。神事とは言われるが、地元のみんなのつながりの場になっている。奉賛会でも秋まつりなどもなくなってしまっていて集まれるのは、はだか祭だけだと言っていた。

・男性ばかりではできなくなって女性にも入ってもらいたいとか様々な地域の声がある。はだか祭の日ばかりは学校もお休みなので、子どもたち来るし、地域外の人も行けるような祭りではだか祭は素晴らしい祭りだと感じた。思うのは、こうしてあげないといけないとかではなく、行ってみない？やってみない？と市民が互いに誘い合って、参加・体験することが大事だと思う。その場の空気とかを感じないとわからないこともある。

・女性が参加することをいろいろ言う人もいるが、楽しんでやっているわけではなく、もし失敗したら、国府宮さんに申し訳ないという思いで真剣にやっている。男性だけのお祭りというわけではなく、女性もサポートしていて、家族ぐるみのつながりを作る祭りだと感じた。

(委員)

・もともと女性は裏で支えていて、お参りも行ってた。

(委員)

・はだかでもみ合っているのは見るだけだか、お参りは行っていた。笹の奉納を男性がまずやってからもみ合いをする。

(委員)

・世間の中には、もみ合いもするのかと冗談を言う人もいたが、そんなことではなくて、もともと女性や子どもが午前中には参拝に行っていたのを今の形で笹の奉納をやったらどうかということ。

(委員)

・もともと女性が男性を送るために家の中で準備して送り出して、無事に帰ってくるのを待っていた。家族や地域が協力していて、地域が結び付く祭りになっている。

(委員)

・昔は明治地区、大里地区は学校が休みではなかった。朝から餅つきの準備で親がいなかった。そのうちに全て休校になり。祖父江町と平和町が合併した際、祖父江地区、平和地区も休校になった。

・稲沢市民がはだか祭の内容を知らないことも多い。神事だからということで、学校で教えてこなかった。今は、総合学習の調べ学習ではだか祭を調べていたりする。今の子どもの方が大人より詳しいかもしれない。

(委員)

・出てみたいという女性が多くいる。一度は経験して、地域に戻って少しずつ広まったらいいと思う。

(委員)

・はだか祭の放送が前は部分的だったが、今回は長時間中継された。

・はだか祭について何のための祭りか聞かれたが、すぐに答えられなかった。はだか祭について、稲沢市が発信するのか、国府宮神社が発信するのかはわからないが、うまくPRするといいと思う。

(委員)

・天下の奇祭とはいうけれど、実際に体験するとこれはすごいとなる。テレビを見ると、詳しく放送されていた。ただ、当日の話と前後の少しだけなので1か月ほどかかる行事とは紹介していない。そういうことまで市民が知っているのかなあと思う。

(委員)

・地域の伝統行事や地域の祭りなど集まりがだんだんとなくなっている。はだか祭みたいな大きなものはなくならないと思うが、小さな規模の祭りなどのコミュニティを考えると、地域のつながりが薄くなってきている。後継者不足とかの問題も聞かれる中で、隣近所や町内といった地域のコミュニティの集まりがあるといい。今までのやり方についていけない若者が多いならなら、祭りを復活させるのか、新しいものを見つけてやっていくのかも考えなければいけない。また、そういうことをやっていくリーダーシップのある人がなかなか見つけられない。

(委員)

・小学校の不登校でも、学校に行きたくないと言ったら、タブレットでやればいいのかオンライン授業をやりなさいとか他の会議の中に出てきてしまっている。そんなことではないだろうと思う。

(委員)

・難しいところだが、みんなで声をかけあって行くよと言って行けばいいなと思う。

(委員)

・市内で引っ越しをして、前の地域では、役員をやったり様々な方と触れ合い、お祭り出たりとかすることによって、だんだんと愛着が出てきていたが、引っ越し先の場所に対する愛着というのがまだ形成されていないと実感していて、新しく引っ越してくる人たちも同じではないかと思う。その地区の情報もないので、その祭りもなぜ始まったかわからず、面倒臭いからいいやとなってしまうたりする。その部分を社会教育として、一番身近なところだと区長さんとか、もっと大きな括りでいえば公民館とか、公民館事業でやっていってほしいと思う。

(委員)

・広く市民にお知らせするのが社会教育事業だと思う。目の先のことに捉われず、市民の皆さんがどういう位置づけにあるのか、何を知らせなければいけないか、学ばなければいけないかを様々考えるのが私たちの仕事かもしれない。

(委員)

・イタリアのシエナではだか馬の競争というのがあって、地区対抗で祭りをやるが、ものすごい盛り上がりで、中継もされる。いずれかの地区が優勝して、凱旋パレードをするが、凱旋パレードに出くわして、偉い人が前を歩いてくるかと思ったら、先頭を切って歩くのがベビーカーに乗った赤ちゃんだった。お母さんたちがベビーカーを押して、その次が小さい子たち、小学生、中学生、若い人たちと続いていった。そこで子どものころから刷り込まれているのだと思った。8月にそれがあって、参加するのが当たり前で、それが昔から子どものころから毎年楽しみにやっているということがわかる。そういう意味では、はだか祭の日に小学校を休みにしないで全員で見に行くとしてもいいと思う。伝統は頭で理解することではなくて、体に刷り込まれたものなのではないかと思う。

(委員)

・お出かけ教室で学生たちにお話しただくが知らないことだらけだと思う。たまたま稲沢市に通学してきている学生が、稲沢市はこんなまちなんだとか、こんな歴史があるんだとか、今こんなことを将来考えているんだとかことを意見交換するすごくいい機会になっている。

・自分たちの住んでいるまちの健康づくり活動について調べて発表するという授業をやっているが、それをやってみると、そこで自分の市町がこんなことをやっていたんだとか驚きや発見があって、自分たちの市町はこんなことをやっていますと報告してくれる。自分の住んでいる地域が何をやっているかとか、どんな政策があるのかとか知らないの、そのあたりのことは力を入れて、住んでいる地域のことを考えようということをや

るべきだと思う。

(委員)

・はだか祭の中継を見ていて、初めて知ったことが多かった。知らなかったというのがもったいなく感じた。テレビで見ることしかなく、知る機会もなかったので、例えば公民館の場所が地域のことを知る要の場所になるといいと思う。住んでいる地域は行事が多いが、少しずつ減っている。それでもまだまだ残っている方で、もっと減っている地域もある。私たちが子どものときに経験したことと今の子どもたちが経験することは全然違うのだろうと思う。

・大学で教えていて、学生たちも喧嘩したことないとかいう人もいて、人とつながる力が地域の中や部活とかで培ったものがあつたと思うが、地域で様々なものがなくなって行って、人とつながる力がなくなっていくのが怖いことだと思う。

◎閉会

部長あいさつ

〈午後3時10分閉会〉